



F-wave

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

特集：英字新聞・・・発信から交流へ



The Shonan Post(以下TSP)は、市民活動プラザむつあいが主催する「湘南台駅地下パネル展示」に参加して活動を紹介して下さった市民活動団体です。TSPは毎月英字新聞を発行していて、記事の内容に興味を持ったので、活動日に取材させていただきました。

英字新聞はA3サイズ2つ折り(計4ページ)で、特集記事では2022年には大河ドラマにちなんで鎌倉時代を取り上げ、2023年には「蛇」や「うさぎ」など日本の神話や伝説に出てくる動物を取り上げました。コラムにはシリーズで「海老茶」

のような日本特有の色に関することや、「コツコツ」といったオノマトペがあげられ、日本人が読んでも再発見があり興味深く感じます。

TSP創刊の頃から携わっているテリーさんに英字新聞誕生について伺いました。「TSPの前身の『鎌倉ポスト』の頃から、日本に住んでいる外国人にとって、英語による情報がとても少なかった。そこで少しでも役立つために、15年間『鎌倉ポスト』が頑張ったが、中心的メンバーの都合で発行できなくなった」ということでした。(つづく)



英字新聞・・・発信から交流へ

テリーさんはバトンを託され、同じ創刊メンバーのナンシーさんや他のメンバーとご自身が住んでいる藤沢から範囲を広げて、今のTSPに至りました。

ナンシーさんは以前の記事で「英字新聞を発行する目的は二つある。一つは住んでいる外国人に実際に役に立つ情報を伝えること。もう一つは外国人が積極的にコミュニティに参加できるようになること」と述べています。また「行政は住みよい街づくりはするが、私たちは楽しく暮らせる情報がほしい。長く日本に暮らしていて、日本語を話すことはできても、読み書きができる人は少ないので、そのためにも英字新聞は必要だった。そういう人たちのためにも役に立ちたい」とテリーさんも言います。



そして創刊20年を超えて、毎月800部を発行し、公的機関を中心に広く配架されています。またTSPは現在アメリカ人のテリーさん、カナダ人のナンシーさんの他に日本人8人の女性メンバーで構成され、強い絆で結ばれています。共通語は英語で、月に一回集まる以外はメールでやり取りし、お互いをファーストネームで呼び合い、皆が対等、自由だといいます。ミーティングでは、率直に意見を出し合うので、そこで新たなアイデアが生まれるそうです。取材日に活動に参加していた名菜子さんは、この中で一番会員歴が短く、それでも8年。引越してきたばかりで知り合いがいない時に、いい仲間めぐり会えたそうです。皆、子育てなど色々あっても、補い合って活動を続けてきました。



またTSPは毎月の英字新聞の他に、小中学生を対象としたバイリンガル新聞作りのワークショップを2022年から鎌倉市の玉縄青少年会館を会場にして始めました。夏休みに2日間を使って開催し、2023年のテーマは「南京玉すだれ」。参加者はリピーターを含めて12名でした。一日目は先生(玉すだれ芸人)の話聞いて、インタビュー。二日目は書く日。文字にまとめたものを記者会見で発表しました。それをTSPのメンバーが対訳で英語にして、TSPのジュニア版として、「The Shonan Post Jr.」が完成しました。出版する楽しさ、喜びを次世代に伝えたいとテリーさんは言います。

TSPのメンバーは日頃からアンテナを張って情報収集して、街の情報も文化も伝えていきます。最近では、英語の落語やイベントの記事掲載の依頼もくるそうです。そして活動はさらに広がり、藤沢と鎌倉で「国際交流フェスティバル」に参加するなど交流の夢は膨らみます。

デジタル化が進み、2009年にはTSPはウェブサイトを開発しましたが、あくまでも紙媒体での発行が大切だと信じています。紙面作りのプロセスを楽しみつつ、そこで生活している人に役立つ英字新聞作りをするという強い信念は変わりません。また手作り感溢れる記事もTSPの魅力です。取材中も和気あいあいと編集作業をする光景を見て、今後の活動にエールを送りたいと思いました。

(取材と記事作成:市民活動プラザむつあいスタッフ)

団体紹介

The Shonan Post

設立 : 2000年5月
メンバー: 10名
WEB : <http://www.shonanpost.com/>

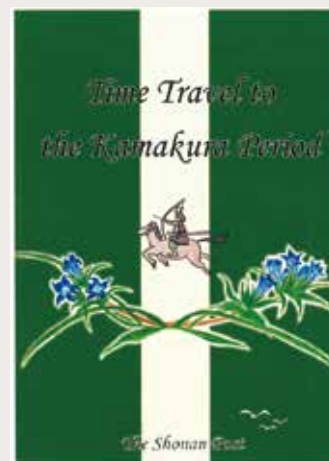


TSP



TSPjr

団体のウェブサイトには今までの記事が「The Shonan Post Jr.」を含めてアーカイブスで見られ、TSPの熱意がこもった活動をよく知ることができます。手書きのイラストには温かみと親しみがあります。改めて湘南地域を知り、文化を再発見して外国の方との交流の第一歩にしませんか。『Time Travel to the Kamakura Period』はTSPのイチオシの出版物です。



令和6年能登地震により被害を受けた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族に心からお悔やみを申し上げます。また、被災地域の日も早い復興をお祈りいたします。

大規模災害が起こった際に、被災した人や地域のために何かしたいと思ったときに離れた場所からできる支援の代表が寄付です。特に発災直後、被災地で直接の支援を行う専門性を持った機関・団体以外ができることは限られます。

今号では、被災地に関連した寄付先のうち、「支援金」と「義援金」の違いについてご説明します。

被災自治体や支援機関・団体等による寄付募集が行われますが寄付先には主に「義援金」「支援金」と直接活動する団体等があります。このうち、直接

活動する団体等への寄付については、団体の活動を知った上で、その活動を支援するための寄付となります。では、「義援金」と「支援金」はどう違うのでしょうか。

義援金

まず、義援金については、主に被災自治体や赤十字などによって寄付募集が行われ、被災者の生活再建のために使われます。被災者の人数把握が済んだ後、公平・平等に分配されます。被災者の生活を直接に支援することにつながります。

支援金

支援金については、被災地域にある公益財団や共同募金会などによって寄付募集が行われ、発災直後の救援活動や中長期の復興活動に使われます。被災地や避難所等で必要な支援を行う団体等に届けられます。速やかな救援、避難所支援、復興等に役立てられます。

被災者に寄り添って生活再建につなげたいのであれば義援金、救援や復興などの段階に沿った支援に使ってほしいのであれば支援金など、寄付の目的によって寄付先を選ぶことが大事です。街頭募金を行う際にも寄付先を明らかにして募金活動を行うようにしましょう。

街頭募金の手順については、当施設ウェブサイトでご案内ページを作成しています。



平時の取り組みを発災時に活かす

内閣府は、2011年の東日本大震災をはじめこれまでの多くの災害の教訓・反省を踏まえ、特に2016年熊本地震以降は、行政・災害ボランティアセンター・NPO/ボランティア等による「三者連携」を基本とした連携・協働の形が定着しつつある。しかしながら、こうした三者連携による情報共有会議の連携・協働の枠組みは災害発生後に急遽形成される傾向にあり、本来は平時の段階から地域の関係者が事前準備しておくことが望ましい。このため、内閣府では各地での研修会開催等を通じ特に行政職員の意識を高めることにより、三者連携を推進していくこととしている。

直近の開催事例は、秋田県内の令和5年7月14日からの大雨で被災され、復旧支援を希望する市民と関係機関をつなげる窓口として、民間支援情報共有会議第1回を8月9日に開催した例がある。参加者は、自治体・社会福祉協議会・ボランティアセンター・NPOなどで主に活動団体の情報共有が行われた。被災から6カ月たった今でも月2回ほど開催し、被災者の悩みや支援の課題を共有し、連携を深めている。本会議の中心的な役割を担っている、畠山順子氏は「被災者に長期的に寄り添い、気軽に支援を求められるような仕組みを作っていくことが大切。NPO、市、市社会福祉協議会など関係機関がそれぞれの強みや役割を把握し合い、被災者の悩みに応じてしかるべき機関に迅速につなげていくべきだ。活動を通して見えてきた課題を会議で共有し、より柔軟な支援をしていきたい」と語る。

能登半島震災復興支援への民間の取り組みは今後本格化すると考えられ、1月末日現在、開催されていないが「民間支援情報共有会議」が開催される日も遠くはないだろう。

内閣府が指摘しているように、三者連携による情報共有会議の連携・協働の枠組みは災害発生後に急遽形成される傾向にあり、本来は平時の段階から地域の関係者が事前準備しておくことが望ましく、全国で平時から災害復興を支える、民間を巻き込んだ枠組みの構築が進められ、神奈川県も例外ではなく、民間の災害復興支援組織として「災害復興・くらし応援・みんなのネットワーク」が発足し、活動を開始した。

藤沢市民活動推進機構では、災害復興支援として、東日本大震災以降、県外避難者のサポート・募金活動・被災地生産物の販売・リユースPC等寄贈などを実施してきた。1月27日/28日は、サポートクラブの皆様、市内市民活動団体の皆様、藤沢災害救援ボランティアネットワークのメンバーの皆様を交え、藤沢駅南口周辺で街頭募金を実施した。老若男女様々な年代の方からご寄付を頂いた。お預かりした280,336円は全額、支援金として現地コミュニティ財団(公益財団法人ほくりくみらい基金)の「令和6年能登半島地震 災害支援基金」に支援施設内の募金箱で預かった寄付金を合わせて送金する。

今後も市民活動組織の平時の取り組みの支援を中心に活動を続けていくが、発災時にもその関係性を維持した支援ができるよう連携を強めていきたいと思っている。(ト)

なぜなに

NPO

vol.175



講座・イベントの

ごあんない

イベント

日時

■プラザ de 学ぶ 資金調達のための準備術	2024年 2月 25日(日) 10:00~12:00
■トマトとピザと藤沢の話~地域で自分らしく生きていく~	2024年 3月 6日(水) 19:00~20:30
■第9回 外国人の日本語スピーチ大会 in 湘南台	2024年 3月16日(土) 13:30~15:00
■NPO 見本市 in 藤沢総合高校 出展団体募集	2024年2月21日(水) 締切(3月19日(火) 実施)
■ボランティアフォーラム 場づくり・人づくり・機会づくり	2024年 3月 24日(日) 10:00~12:00

NEW!

支援施設からのお知らせ

■プラザ de 学ぶ 資金調達のための準備術

活動に必要な資金を獲得するための方法を学びましょう。調達手段を知るだけではなかなか獲得できないため、事前に考えておくべきことなど、必要な準備について解説します。

日時：2024年 2月 25日(日) 10:00~12:00

会場：六会公民館 2階 第1談話室

講師：林 純氏（藤沢市市民活動支援施設アドバイザー）

料金：無料

定員：20名（先着順・要事前申込・1団体で複数名の参加推奨）

主催：市民活動プラザむつあい

■トマトとピザと藤沢の話~地域で自分らしく生きていく~

地域で自分らしく生きることについて考えてみませんか？
藤沢産のトマトを育てているゲストからお話を聞き、地域で活動すること、自分らしい生き方について考える交流会です。地域に興味のある方、自分の生き方を考えたい方、ぜひご参加ください。

日時：2024年 3月 6日(水) 19:00~20:30

会場：市民活動推進センター フロア

料金：無料

定員：30名

対象：地域と繋がりたい、何か活動してみたい方
自分らしい生き方を考えたい方

講師：湘南佐藤農園 佐藤智哉氏

主催：藤沢市市民活動推進センター

■第9回 外国人の日本語スピーチ大会 in 湘南台

藤沢に暮らす外国人のみなさんのお話を聞きに来ませんか。日本語を学んでいる生徒が自分たちの思いを地域の方々に語るスピーチ大会です。

日時：2024年 3月 16日(土) 13:30~15:00（開場：13:00）

会場：湘南台文化センター 市民シアター

料金：無料 対象：市民一般 400名（先着順）

申込：不要（当日直接会場にお越しください）

共催：市民活動プラザむつあい・湘南台公民館（連携事業）

■NPO 見本市 in 藤沢総合高校 出展団体募集

県立藤沢総合高等学校で開催するNPO見本市は、高校生に、NPOやボランティア活動を知ってもらうことや、活動への参加を促すことを目的としています。この機会をご活用いただければ幸いです。

日時：2024年 3月 19日(火) 7:50~11:30（実施時間 9:05~10:50）

会場：神奈川県立藤沢総合高等学校 体育館

募集対象：学生が体験できるワークショップ（20分弱×5回）のブースを設置可能な藤沢市市民活動支援施設登録団体

締切：2月21日(水)

主催：藤沢市市民活動推進センター

■ボランティアフォーラム 場づくり・人づくり・機会づくり

地域の人々が集まる・受け入れられる場や、参加しやすい機会づくりについて考えてみませんか？不登校の支援や、居場所づくりなど、抱える課題や属性問わず、安心して参加できる場についてお話を聞きます。

日時：2024年 3月 24日(日) 10:00~12:00

会場：藤沢市役所分庁舎 活動室

料金：無料 定員：30名

対象：藤沢市内で活動する市民活動団体、内容に興味関心のある個人

主催：藤沢市市民活動推進センター・藤沢市社会福祉協議会

申込・問合：藤沢市市民活動推進センター

発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00~22:00 火曜休館

※日・祝は9:00~20:00

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢 1031 アーバンセンター藤沢 2F

TEL: 0466-54-4510 FAX: 0466-54-4516

Eメール: f-npoc@shonanfujisawa.com



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00~17:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野 4-8-1 六会市民センター 2階

TEL&FAX: 0466-81-0222

Eメール: f-npoplaza@shonanfujisawa.com

編集：認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構（藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体）

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております♪
サポーターも随時募集中です！